

日本人における糖尿病発症に関するエビデンスの構築

【わかってきたこと】

糖尿病の発症に関する要因についてのエビデンスは、これまで欧米人に関するものが数多く報告されましたが、日本人におけるエビデンスは必ずしも十分に得られていませんでした。

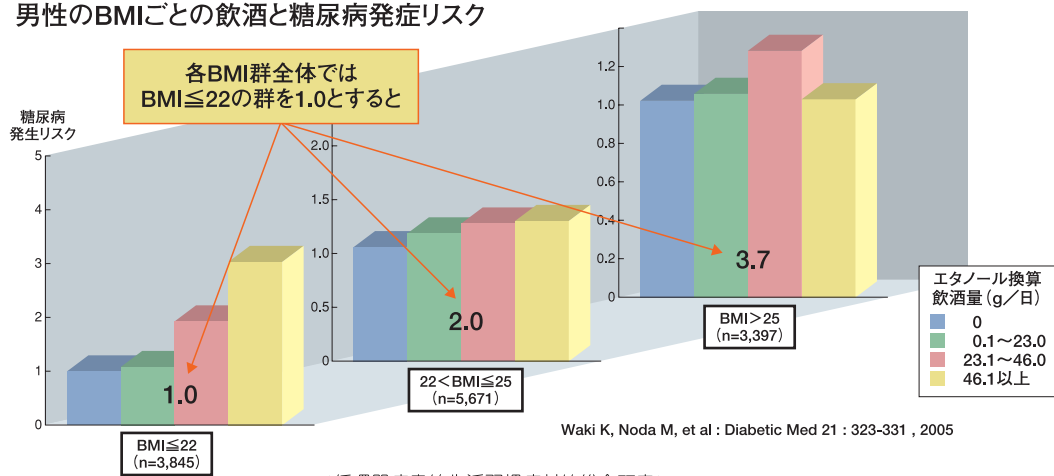
【今回の成果】

日本人において、その後の糖尿病発症率の上昇に関する因子として、年齢、BMI（下図）、糖尿病の家族歴、喫煙、高血圧などが、大規模な住民調査により明らかになり、やせ型の男性では飲酒もまた、その後の糖尿病発症率の上昇に関係していました（下図）。

【今回の成果の意義】

本研究による成果が、エビデンスに基づいた生活習慣病予防の保健指導における指針の構築や、糖尿病やメタボリックシンドロームの診断基準の見直しに活用されることが期待されます。

男性のBMIごとの飲酒と糖尿病発症リスク



<循環器疾患等生活習慣病対策総合研究>

エイズ予防のための戦略研究

【目的】

効果的な大都市型予防対策モデルを創出するために、男性同性愛者を対象とした当事者による効果的な啓発普及戦略を開発するとともに（研究課題1）、メディアによる一般都市住民に対する効果的な広報戦略を開発します（研究課題2）。

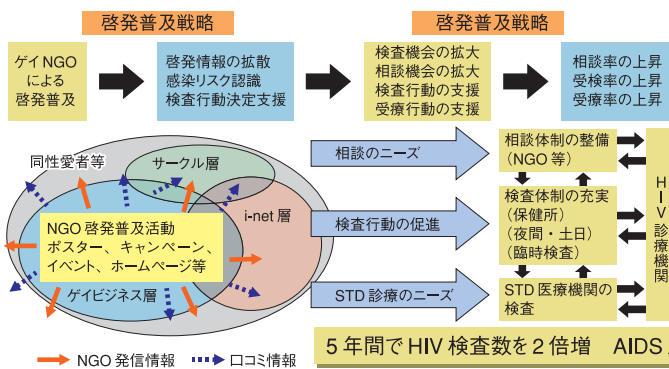
【課題1】

当事者に訴求性のある啓発資材をゲイ商業施設、ゲイネットワーク、ゲイメディアを通じ、また大規模キャンペーンにより首都圏、阪神圏でのHIV関連情報の浸透を図ります。また、保健所等公的HIV抗体検査機関、STD等医療機関での受検機会の確保と受検者層の拡大を行います。さらには、MSM対象の相談による不安軽減、HIV陽性判明者への受療支援を実施します。

【課題2】

一般の大都市住民を対象に、年齢や性別など対象の特性に相応しい対策を開発し、集中的な広報によってHIV検査行動とHIV感染予防行動の促進を図ります。広報は、社会科学的手法（マーケティング、行動科学、質的方法、社会実験法）を駆使して、綿密な形成調査に基づいて開発し、多様なメディアによる広報を、STD等医療機関、インターネット、交通機関、職域、学校など、多様な場において、集中的に実施します。

エイズ予防戦略研究・課題1 首都圏、阪神圏の男性同性愛者等を対象とした介入研究



<エイズ対策研究>

エイズ予防戦略研究・課題2 首都圏在住者を対象とした介入研究

